

# 点検評価シート

## 【指標 1】

障害のある教員が活躍する姿をホームページ等で紹介したり、教員養成課程を有する大学等で説明会を開催したりすることを通して、教員採用選考試験における障害者特別選考の志願者数の拡大を目指します。

指標	現状値 (令和 2 年度)	実績値 (令和 3 年度)	実績値 (令和 4 年度)	実績値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 7 年度)
教員採用選考試験における障害者特別選考志願者数	43 人	49 人	46 人	53 人	50 人以上

指標達成に向けた取組実績及び課題 ※行頭の数字は障害者活躍推進計画の工程表番号	
<p>④障害者特別選考試験の実施</p> <p><b>取組実績</b> 令和 5 年度実施の教員採用選考試験の障害者特別選考において、志願者数は対前年度比 7 人増の 53 人となった。このうち、5 人が最終合格となった。</p> <p>(参考) ○学校種別志願者数 (R4) 県立学校 29 人、小中学校 17 人 ○学校種別志願者数 (R5) 県立学校 29 人、小中学校 24 人 ○学校種別合格者数 (R5) 県立学校 5 人</p>	<p>&lt;担当課&gt; 県立学校人事課 小中学校人事課 教職員採用課</p>
<p>⑤障害のある教員が活躍する姿のホームページ等で紹介</p> <p><b>取組実績</b> 教員を目指す障害のある方へ向け、教員採用選考試験障害者特別選考を経て採用した教員からのメッセージを県教育委員会ホームページ上に掲載した。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 教職員採用課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p>⑥大学・短期大学等への説明</p> <p><b>取組実績</b> 4 月に県内外の 52 大学を訪問し学生に対し、障害者特別選考を実施していることや障害の程度に応じた配慮を行っていることなどを説明した。また、11 月以降 50 大学を訪問する予定である。</p> <p><b>課題</b> 大学等への説明会では、時間的制約もあり障害者特別選考に関する説明が十分にできない場合もある。そのため、受験に当たって障害に応じた合理的配慮を行っている事例などを大学の教職課程担当者に伝えるなど個別のアプローチを行った。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 教職員採用課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p>⑨障害のある教員の養成を推進</p> <p><b>取組実績</b> 彩の国かがやき教師塾の大学等を対象とした説明会において、障害を理由に教員を諦めることのないよう、働き掛けた。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 県立学校人事課 小中学校人事課 教職員採用課</p>

外部有識者の意見・提言
<ul style="list-style-type: none"> <li>採用選考試験における合格者の生の声は非常に重要であり、受験案内に掲載されているのは良い取り組みである。</li> <li>障害のある教員が活躍する姿のホームページ等で紹介しているが、閲覧者数や閲覧者の属性について統計を取ると良い。</li> </ul>

# 点検評価シート

## 【指標 2】

障害者就業補助員(支援員)の配置、教職員に対する障害者理解を促進する研修の実施、障害者が働きやすい施設整備などを通して、障害のある方が安心して働ける職場づくりを進め、職場定着率を高めます。

指標	実績値 (令和 2 年度)	実績値 (令和 3 年度)	実績値 (令和 4 年度)	実績値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 7 年度)
障害のある会計年度任用職員の職場定着率(*)	94.7%	94.1%	94.2%	※R6.2.1 現在 94.77%	95%以上

\* 当該年度に雇用された会計年度任用職員について、当該雇用期間に対する定着状況を測定するものとする。民間企業等への一般就労を目指す「チームぴかぴか」は除く。

指標達成に向けた取組実績及び課題 ※行頭の数字は障害者活躍推進計画の工程表番号	
<p>④心のバリアフリー推進員の指定</p> <p><b>取組実績</b> 教育局及び県立学校の各所属職員の中から心のバリアフリー推進員を指定した。同推進員に対しては、令和 5 年 1 2 月に机上研修を実施した。同推進員は当該研修内容に基づき各所属内で研修を実施した。</p> <p><b>課題</b> 障害者理解の促進や働きやすい職場づくりについて着実に実施されている一方、障害のある職員からの相談等への対応については引き続き一層の充実を図る必要がある。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課</p>
<p>④「障害者職業生活相談員」の配置</p> <p><b>取組実績</b> 障害者雇用促進法に基づく障害者職業生活相談員を、障害者である教職員が 5 人以上在籍する教育局課所館、県立学校の各所属にて選任した。また、市町村教育委員会を所管する教育事務所から 1 名ずつを選任し、必要に応じて市町村教育委員会担当者からの相談を受けた。</p> <p><b>課題</b> 障害のある職員本人に対する障害者職業生活相談員の相談体制が不十分である。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p>④ハローワークや障害者就労機関等との連携</p> <p><b>取組実績</b> 障害のある会計年度任用職員の職場定着を高めるため、教育局内に配置している巡回支援員 2 名が、教育局各課所館、県立学校において勤務する会計年度任用職員と面談を行った。併せて必要に応じて就労支援機関と連携し、定着支援に向け情報共有を行った。 また、小中学校においては、必要に応じて、就労支援機関等から、選考時から採用までの支援や採用後の職場定着に向けたサポートを受けた。</p> <p><b>課題</b> 就労支援機関等を利用していない職員や、利用していても就労支援機関等ごとにサポートに差がある。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>

<p>⑫ 支援員の配置及び支援員の研修</p> <p><b>取組実績</b> 全体で 45 人の支援員を配置した。支援員に対しては、7 月 27 日及び 7 月 31 日に外部講師による研修を実施し、グループワークを取り入れることで、支援員間での情報交換を行った。</p> <p>(参考) ○配置内訳 教育局 12 人、県立学校 12 人、小中学校 21 人</p> <p><b>課 題</b> 支援員の資質や能力にバラツキがあるため、引き続き、支援員の技術と資質の向上、支援員へのサポート体制の構築が必要である。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p>⑬ 人事担当者向け研修等の実施</p> <p><b>取組実績</b> 各任用課の人事担当者向けに、障害者雇用に関する実務研修を開催した。また、市町村教育委員会の人事担当者を対象とした障害者の支援体制に関する講演をオンライン（Zoom）で開催した。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 小中学校人事課</p>

<p><b>外部有識者の意見・提言</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人事担当者向けの研修は非常に良い取り組みである。</li> <li>・ 県内には就労支援機関が 70 ほどあるが、就労支援機関の存在について認知度を高めていくと良い。</li> <li>・ 各職場で発生した課題を早期に解消するため、巡回支援員を増員できると良い。</li> </ul>	

# 点検評価シート

## 【指標3】

法定雇用率の段階的な引き上げなどを踏まえ、計画的に法定雇用率達成を目指します。

指標	実績値 (R2.12.14)	実績値 (R3.6.1)	実績値 (R4.6.1)	実績値 (R5.6.1)	目標値 (R7.6.1)
障害者雇用率	2.41%	2.53%	2.52%	2.57%	2.7%以上

指標達成に向けた取組実績及び課題 ※行頭の数字は障害者活躍推進計画の工程表番号	
<p><b>①障害のある短時間勤務職員の雇用</b></p> <p><b>取組実績</b> 教育委員会全体で362人の障害のある短時間勤務職員（会計年度任用職員）を雇用した。</p> <p>（参考）○雇用数内訳            教育局 90人            ・事務補助等：継続41人、新規4人            ・ぴかぴか：継続17人、新規1人            ・事務集約オフィス：継続9人、新規6人            ・清掃業務：継続12人、新規0人            県立学校 135人            ・事務補助等：継続107人、新規15人            ・清掃業務：継続12人、新規1人            小中学校 137人            ・事務補助等：継続100人、新規37人</p> <p><b>課題</b> 体調不良により勤務が安定しなかったり、数名ではあるが採用後数か月で退職してしまったりするケースも見受けられる。職場におけるサポート体制のほか、採用時において、業務内容等のミスマッチを減らす工夫も課題である。</p>	<p>&lt;担当課&gt;            総務課            県立学校人事課            小中学校人事課</p>
<p><b>②障害のある短時間勤務職員の活躍の場の拡大</b></p> <p><b>取組実績</b> 特別支援学校における教員の授業準備を支援する職員も増え、活躍の場を拡大した。            小中学校において42市町で障害のある短時間勤務職員を配置した。</p> <p><b>課題</b> 個々の特性に応じた業務の切り出しが必要である。ペーパーレス化が進む中で、新たな業務の切り出しを検討していく必要がある。</p>	<p>&lt;担当課&gt;            総務課            県立学校人事課            小中学校人事課</p>
<p><b>③多様な働き方の実施について検討</b></p> <p><b>取組実績</b> テレワークが可能な職務について研究するとともに、市町村教育委員会に聞き取りを行った。</p> <p><b>課題</b> 完全テレワークを行った場合の勤務管理の在り方やテレワークのみの勤務に対応できる職務の創出。</p>	<p>&lt;担当課&gt;            総務課            県立学校人事課            小中学校人事課</p>

<p>④ 障害者特別選考試験の実施</p> <p><b>取組実績</b> 令和5年度実施の教員採用選考試験の障害者特別選考において、志願者数は対前年度比7人増の53人となった。このうち、5人が最終合格となった。</p> <p>(参考) ○学校種別志願者数 (R4) 県立学校29人、小中学校17人 ○学校種別志願者数 (R5) 県立学校29人 小中学校24人 ○学校種別合格者数 (R5) 県立学校5人</p>	<p>&lt;担当課&gt; 教職員採用課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p>⑦ 実習助手採用選考における障害者特別選考の実施</p> <p><b>取組実績</b> 令和5年度当初の実習助手は最終合格に達する者がいなかったため、採用していない。 令和6年度当初採用に向けた実習助手採用選考試験の障害者特別選考において、5人の志願者のうち1人が最終合格となった。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 県立学校人事課 教職員採用課</p>
<p>⑧ 寄宿舍指導員採用選考における障害者特別選考の実施</p> <p><b>取組実績</b> 令和5年度当初に1人の寄宿舍指導員を県立学校で採用した。 令和6年度当初採用に向けた寄宿舍指導員採用選考試験の障害者特別選考において、3人の志願者のうち1人が最終合格となった。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 県立学校人事課 教職員採用課</p>
<p>⑨ 障害者を対象とした埼玉県職員採用選考による採用</p> <p><b>取組実績</b> 令和5年度当初に全体で10人の事務職員等を採用した。</p> <p>(参考) ○採用内訳 教育局3人 県立学校3人 小中学校等4人</p> <p><b>課 題</b> ここ数年で、短時間勤務職員として勤務をしている者から、障害者選考を経て、本採用職員にステップアップした者がいない。 また、志願者の中で教育委員会での勤務を希望する者が少ないため、職務内容の周知等、希望者を増やすための取組が必要である。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p>⑩ 職員募集パンフレットなどでの紹介</p> <p><b>取組実績</b> 障害者を対象とした埼玉県職員採用選考パンフレットで障害のある教育局職員1名、小中学校事務職員1名を掲載した。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p>⑫ 特別支援学校・就労移行支援施設等との連携</p> <p><b>取組実績</b> 就労移行支援施設等と連携し、定着支援を行った。 また、小中学校においては、就労移行支援施設等から募集している学校の職場見学の希望があったときに、該当市町村と調整した。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>

<p><b>⑬ プレ雇用制度の実施</b></p> <p><b>取組実績</b> 本人への制度説明及び利用希望の確認を行ったところ、R5.4.1本採用事務職員1名から利用希望があり、プレ雇用を実施した。</p> <p><b>課 題</b> 採用直前まで働いている民間企業等からの転職者が多いため、利用できる者が限られる。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p><b>⑭ 研修等の受講に係る配慮</b></p> <p><b>取組実績</b> 研修等において、資料の音声読み上げや文字等の拡大資料を配布した。また、手話通訳者を配置し、障害のある職員が参加しやすい対応を行ったほか、車椅子利用者に対して駐車場の確保や動線が確保できる座席を用意した。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課 高校教育指導課 義務教育指導課</p>
<p><b>⑮ 障害のある短時間勤務職員に対する指導・支援</b></p> <p><b>取組実績</b> 必要に応じて障害のある短時間勤務職員に対して支援員を配置し、業務遂行に必要なスキルなどの指導や他の教職員とのコミュニケーションの支援、職場定着支援を行った。 また、市町村教育委員会の担当者とも連携を図り、随時、情報共有を行った。</p> <p><b>課 題</b> 支援員からの指示と管理職からの指示に差異があり、障害のある職員がどのように仕事を進めてよいか戸惑ってしまうケースが見受けられた。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p><b>⑯ 障害のある短時間勤務職員に対する研修</b></p> <p><b>取組実績</b> 障害者会計年度任用職員が勤務している所属の管理職や職員、就業補助員による指導・支援を行った。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p><b>⑰ 教職員への研修</b></p> <p><b>取組実績</b> 教育局及び県立学校においては、心のバリアフリー推進員が各所属内で研修を実施した。 小中学校においては、市町村教育委員会の人事担当者を対象とした障害者の支援体制に関する講演をオンライン(Zoom)で開催し、内容を管内各学校に伝達してもらうよう依頼した。</p> <p><b>課 題</b> 特に見た目では分からない障害の特性に対する理解や支援のあり方については、研修を通じて、職員の周囲の職員が障害特性をよく理解し、障害のある職員の特성에応じたサポートが実践できる体制を強化していく必要がある。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>
<p><b>⑱ 障害のある教職員の配置方針等の明確化</b></p> <p><b>取組実績</b> 教職員人事異動方針に、障害のある教職員の配置方針を明記し各所属長に対し適切な対応を要請するとともに、各教職員へ同方針を周知した。</p> <p><b>課 題</b> 障害のある教職員の配置について、市町村によっては1名も配置されていないなど、市町村ごとの雇用率に差異が生じている。</p>	<p>&lt;担当課&gt; 総務課 県立学校人事課 小中学校人事課</p>

⑳ 国への要望

取組実績

埼玉県が毎年実施する「国の施策に対する提案・要望」において国への要望を実施した。

課題

障害のある職員の業務全般をサポートするスタッフや、実技指導など特定の教科指導を代わりに指導する教員の配置について要望を行っているが、なかなか実現されない。

<担当課>  
総務課  
県立学校人事課  
小中学校人事課

外部有識者の意見・提言

- ・ 1日2時間や3時間勤務などの短時間勤務の働き方を積極的に取り入れていくことによって、障害者雇用の裾野が広がっていく。
- ・ 障害者雇用は採用してから、雇用を継続し、定着させるというところが重要である。各地域の就労支援機関などの公的機関とうまく連携することが大切である。